



JPSTSSテレ手術見学教育研修プログラム (JPSTSSTeleOSprogram) 企画趣意書

発足日

2021 年（令和3 年）7月吉日

再発足日

2022 年（令和4 年）11月吉日

主催団体

日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS学会)

代表者

理事長 熊野潔（東京都品川志匠会病院 脊椎外科顧問）

名誉理事長 佐野茂夫（東京三楽病院脊椎脊髄センター）

副理事長 山崎昭義（新潟中央病院脊椎脊髄センター）

補佐 山崎隆志（東京武蔵野日赤病院）

補佐 中尾祐介（東京三楽病院脊椎脊髄センター）

学会事務局

〒107-0062

東京都港区南青山 2-221フォンテ Ⅷ

TEL/Fax:03-6804-1044

E-mail:office@jpstss.jp

趣意書

拝啓 JPSTSS学会員におかれましては益々ご清栄のほどお慶び申し上げます。

この度、日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS学会）は 2021 年7月吉日より オンラインのテレ手術見学教育研修プログラム（TeleOSprogram） を発足させます。

【経緯】 本企画は新型コロナウイルス禍の社会状況下に適応した外科系教育研修プログラムである。元来手術手技は外科医の手から手へと直接的に伝えられる技であり手術現場に立ち会うことを是としてきた。しかし新型コロナウイルス禍では人が交流し会合して密な空間で互いに教育研修することはウイルス感染のリスクを高めるので避けるべきとなっている。そこで現地手術見学研修を予め撮影された手術手技の映像と術者の説明を付加した動画をオンラインで遠隔にいる複数の視聴者に届けた後で術者と視聴者がネット上で質疑討論することは現地手術見学することに匹敵する教育研修と考えられる。熟練の脊椎外科医等が行う手術を一つの動画に編集してオンラインで限定された視聴者に送付するプログラムを開発することになった。

【目的】 1) 脊椎・脊髄外科の熟練者の手術手技の動画のオンライン配信によって脊椎・脊髄外科を志す外科医の教育研修を目的とする。

2) 講演者は自身の手術手技を公開することによって脊椎外科医と脊椎外科関連事業者にポジティブな影響を与えることを目的とする。

一方講演後の質疑応答を通し、講演者自身も思考を深め、手技の改善を図り、動画表現の改良を図ることを目的とする

3) 脊椎脊髄外科手術は術者によって千差万別であり同じものがない。百聞は一見に如かずの格言にあるごとく優れた外科医の手術を記録にとどめる唯一の手段はナレーションを伴った動画撮影であると考え。本プログラムで作成発表される手術手技動画はメディカル ライブラリーとして記録保存されることを目的とする。

【企画概要】 この企画で言う熟練した脊椎脊髄外科医とは過去現在において年間100例以上の手術を行っている医師をいう。そのような熟練外科医の中から複数の座長が決定され、複数の座長のもとで熟練した脊椎・脊髄外科医を整形外科医と脳神経外科医の中から選出し講演者とする。選出された講演者は自身の手術を30分以内の動画にまとめたのちナレーションをつけて一作品とする企画者がJPSTSS 会員から推薦した10名余りの **TeleOS アドバイザー**（手術動画作製をアドバイスする医師群）によって評価査定され修正が加えられる。完成した動画に対し受講者を募り、動画放映の後、Zoom 会議により約30分の質疑応答を行う。受講者は応募によってえられ、受講料を支払って参加する。受講料はJPSTSS 会員と非会員では異なる。この1時間をその講演者の講演1単位と定義する。講演1単位はその後JPSTSS 学会のHP上に保管され、受講者はオンデマンドで閲覧できる。受講にはTeleOS 会員の登録が必要であり、登録は無料である。講演に協賛する企業は医師及び医療関係者をTeleOSprogram の受講者に推薦出来る。デジタルメディアやネットサーバーやビデオカメラなどいかなるコピー

も禁止とする。企業は講演の共催費を払うことによりスポンサー企業になれる。

【組織・役職】 TeleOSprogram企画責任理事3名、IT専従員1名

アドバイザー10数名。任期は任意とする。

【人員】 一単位講演に司会者一名、講演者一名、Zoom会議を操作するIT技術者複数、10名以下のTeleOSアドバイザーと受講者は約10名とする。企画者は座長、IT技術者を兼ねる。

【費用】 講演者、企画者、司会者、アドバイザー、IT技術者への謝礼、TeleOS
会員管理費

【会計年度】 当年9月1日より翌年8月31日までの一年間

【主旨と協賛】 JPSTSS学会は発足以来、脊椎脊髄外科の手術手技の発展を目指し、世界同時進行を理念としてきました。高齢化社会、社会保険問題など、近年の医療業界を取り巻く環境は、年々厳しくなってきました。脊椎脊髄疾患に伴う痛み、麻痺、変形、不安定性に対する手術療法はまさに必須の治療法であります。従って脊椎外科医は更なる手術手技の向上を求められています。とりわけ新型コロナウイルス禍の医療環境ではWebを用いた手術手技の伝承が必須なものと考えられます。脊椎外科医は少しでも多くの患者様の治療に貢献できるよう、手術技術を磨く必要があります。脊椎脊髄手術の手技は、進化し続けておりますが、医療関連産業の発展、進歩に裏付けられており、医療

機器、製薬業界との共生なくしては実現できず、支持して下さる皆様方には深謝する次第です。

本来、TeleOSprogram の運営にあたり、受講料などをもって運営すべきであります。運営上で通信関連を含む様々な費用がかかり、賄うのが困難な状況であります。つきましては、TeleOSprogram の実現と企画運営を可能にするべく、皆様方よりご協力、ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

令和4年11月吉日

JPSTSS学会員殿

日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(JPSTSS 学会)理事長



能野 潔